

スポーツの応援に及ぼす共感性の影響に関する研究

深谷 麻央

本研究は、スポーツ観戦において相手を「がんばれ！」と応援したくなる感情、いわば「応援感情」の生起要因を、観戦者の心理的要因、とくに共感性に焦点を当てて検討することを目的として実施された。これまでのスポーツ観戦者研究では、「なぜスタジアムに来場するのか」という点に注目した、スタジアムでの観戦動機を検討したものが多く、そもそもなぜ選手やチームを応援したくなるのか、という点については十分な検討がなされていない。また、観戦者の心理的な傾向とスポーツ観戦との関連性を検討した研究も少ない。そのため本研究では、スポーツ観戦において相手を応援したくなる感情、いわば応援感情の生起要因を、観戦者の心理的要因、とくに共感性および心理的距離に焦点を当てて検討した。なお、本研究では、共感性を5つの次元でとらえる鈴木・木野（2008）の多次元共感性尺度を用いて測定した。この5次元とは、「他者指向的反応」「自己指向的反応」「被影響性」「視点取得」「想像性」であり、共感性を他者指向と自己指向、および認知面と情動面で弁別するものである。

調査 1 では、共感性の高低が、内集団への観戦時の感情および応援行動に及ぼす影響について検討した。テレビ中継されたサッカーワールドカップの試合を題材に質問紙調査を行い、観戦した時の感情や行動について尋ね、共感性との関連性を検討した。「仮説 1: 共感性高群で観戦時の感情（とくに「誇り」および「怒り」）が生起しやすい」「仮説 2: 共感性高群で応援行動が多くなる」を検討した結果、仮説 1 は部分的に（「誇り」のみ）支持され、仮説 2 は支持された。

そして調査 2 では、共感性の高さと応援感情の起こりやすさの関連性を検討するため、心理的距離の遠近が異なる対象への応援感情について、シナリオ実験を実施した。時間的・空間的・社会的な距離感が大きいほど、解釈の仕方がより高次的・抽象的になるという解釈レベル理論（construal-level theory）にもとづき、抽象度の異なるシナリオ 2 種類を設けて解釈の仕方を変化させることで、対象への心理的距離および共感しやすさを操作した。すなわち、より抽象的な表現がなされたシナリオでは、登場人物に対する心理的距離が大きくなるという操作であった。「仮説 3: 心理的距離が遠いほど、応援感情が生起しにくい」「仮説 4: 共感性が高いほど、心理的距離の遠い対象にも応援感情を抱きやすい」「仮説 5: 「被影響性」および「他者指向的反応」が高いほど応援感情を抱きやすい」を検討した結果、仮説 3 は支持され、仮説 4, 5 は支持されなかった。

本研究の結果より、観戦者の共感性の高さが、「誇り」感情や応援行動を促進することが示唆されたが、応援感情に対する影響は明らかにされなかった。また、内集団意識や心理的距離が応援感情を促進する可能性が示された。一方で、共感性の他者指向—自己指向、認知面—情動面という下位概念を弁別したうえでの、応援感情に対する共感性の影響は見いだせなかった。

今後の展望としては、実際の観戦とテレビ等を介した観戦との性質の違いに考慮した検討や、対象への心理的距離および共感性の影響をより明確に区別した検討を加え、応援感情の生起要因について明らかにしていきたい。（社会心理学）